

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌誌上大会選

佳作 徳川 明美

朝の窓光の中に溶く卵菜の花色に炒り上がりゆく

佳作 西崎まき子

耕せば未来開け行く思ひ土はほろほろさあ芋植ゑむ

佳作 荒瀬左知子

銅メダル北見の町の歓声にカーリング娘のうれしい「そだねエ」

佳作 入谷五十鈴

命日に詣でてくれる教え子のなおあり君逝き二十七年

佳作 岡久 利永

幾人の歌人の短歌を載せ来しか南海歌人六〇〇号よ

佳作 棚野 久子

風なきにささめけることほの揺るる枝垂れ桜の夕べ寂しき

佳作 西條 悦子

肩の荷がツツとおりて一人居のごとき淋しさ夕映えに佇つ

俳句

阿南市俳句連合会選

久米 浩一

台風や籠もり籠もりて過ぐを待つ

卷末の言葉光れりつくつくし

平野 貞子

風雨止み群れとぶあきついずこより

富永 恵女

秋空や傘寿の人のハイヒール

表原 清美

里帰り七輪探し焼く秋刀魚

庄野 早苗

彼岸花ご先祖様に会いに行く

田上 隆敏

秋収め農機具に注す潤滑油

浜田百合子

メモの事すべて終えたり秋の雲

鈴木 順子

音頭取りゐるは姪つ子盆踊

田中 栄子

老農夫手問ひまかける豊の秋

近藤ヤス子

川柳

阿南川柳会 鈴木レイ子選

使い捨て出来ぬ夫婦でダイヤ婚

西田 修身

ピアノ弾く手に脳の様子を聞いてみる

佐藤つたえ

沖縄の香りに酔ったソーキ蕎麦

多田紀久代

追伸へもう迷わない句読点

さつま浪漫

来し方の影を引きずり下る坂

橋本 征介

まだ何か出来そう履歴書の余白

原 公美子

一般応募

虫の音に癒され読書する夜長

ひっそりと胸に咲いてる紅い花

機械化で猫の手無用農繁期

愚痴注意プラス思考で賞味する

島尾美津子

仁井 信子

武田 敏子

吉田 當代

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

山茶花咲く

山茶花發入秋晴

白白紅紅有野情

手折一枝軍持指

儘揮吟筆拙詩成

池田 行子

山茶花発き 秋晴に入る

白々 紅々 野情 有り

手ずから一枝を折り軍持に指し

俛 吟筆を揮えば 拙詩成る

※軍持：水を入れる瓶

靈峰剣山

聞説神皇御劍封

平家殘黨鍊兵峰

山巔四望及千里

蟠踞阿州衆嶽宗

原 美智子

聞く説う 神皇 御劍を封じ

平家の殘党 鍊兵の峰

山巔の四望 千里に及び

阿州に蟠踞す衆岳の宗

※神皇：幼い天皇(安徳天皇)

那賀川晚秋

阿南秋老水侵東

石瀬魚羸波逐風

蘆荻芒芒人已去

虚舟寄岸夕陽紅

田中 公

阿南秋老いて 水 東を侵し

石瀬魚羸せて 波 風を逐う

蘆荻芒芒 人已に去り

虚舟岸に寄つて 夕陽紅なり

川

晴川迂曲一溪長

兩岸桃花又柳楊

浸翠染紅流不止

溶溶千里接穹蒼

市田 嘉則

晴川迂曲して一溪長し

兩岸の桃花又柳楊

翠を浸し紅を染め流れ止まらず

溶々千里 穹蒼に接す